

2009年9月28日

タイ・PTT社との植物を原料とする生分解性樹脂に関する  
共同事業化検討開始について

三菱化学株式会社

三菱化学株式会社（本社：東京都港区、社長：小林 喜光、以下「三菱化学」）及び PTT Public Company Limited 社（本社：タイ王国バンコク市、総裁：Prasert Bunsumpun、以下「PTT」、詳細は別紙の通り）は、タイにおける植物を原料とする生分解性樹脂の共同事業化検討に関し、本年9月25日に基本合意書を締結いたしました。

三菱化学は、親会社である（株）三菱ケミカルホールディングスの中核事業会社のひとつとして、7大育成事業の1つである「サステナブルリソース」における植物等を原料とする樹脂の研究開発を進めております。

現在、石油由来のコハク酸を原料に生分解性樹脂であるGSPla（詳細は別紙の通り）の製造を日本で行っており、欧米を始めとする世界各国で販売しております。また、植物由来のコハク酸（以下「バイオコハク酸」）の製造に関しても三菱化学のバイオ技術を結集して独自技術を完成させており、当該技術を活かした植物を原料とするGSPlaの事業化を検討しておりました。

一方、PTTはタイにおける最大の会社であり、天然ガス田の開発、石油精製、石油化学事業をタイ国内外にて展開しているとともに、現在タイにおいて国家政策として拡大を図っているバイオ燃料、バイオポリマー等バイオ関連事業についても力をいれております。

今後植物を原料とするプラスチックの需要は増大が見込まれることから、この度、三菱化学とPTTは、GSPla及びその原料となるバイオコハク酸の共同事業化検討を開始いたします。具体的には、共同で市場調査を実施するとともに、将来的に共同で事業を行うための詳細事業化調査（フィージビリティスタディ）についても2010年6月を目標に行って参ります。

今後は、上述の共同市場調査及び詳細事業化調査の結果を基に共同事業化の詳細について協議・検討し、決定次第発表いたします。

以上

[本件に関するお問い合わせ先]  
三菱化学株式会社 広報・IR室  
Tel. 03-6414-3730

【PTT社 概要】

会社名 : PTT Public Company Limited  
設立 : 2001年1月  
所在地 : タイ王国バンコク市  
総裁 : Prasert Bunsumpun  
売上高 : 2,000,816百万タイバーツ(約5.2兆円)  
従業員数 : 3,559名  
主要事業 : 石油関連事業、天然ガス事業

【GSPlaについて】

GSPlaは、コハク酸を原料とする生分解性プラスチックで、土中などの自然環境下における生分解性を生かし、農業用ビニルや種苗ポット等農業資材分野等で利用されている。

生分解性の認証においては、日本の日本バイオプラスチック協会(JBPA)のみならず、欧州のOK CompostやDIN Certco、米国BPIの各種認証も取得しており、海外での使用拡大も目指している。

また、ポリオレフィン等衛生協議会にて29番目の自主基準対象樹脂として承認されていることを受け、食品包装資材分野への用途展開も積極的に進めている。